

化学設備を起因物（小）とする死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	業種 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	7	9~10	工場内にて洗浄液の製造中に硝酸の液体を製造槽に投入中、たまたまハンディプロポンの根元（樹脂製）パイプが折れ、右大腿部に液体がかかり、負傷したものである。	50	10899	12	—
2017	9	21~22	店内パントリーにて生ビールを新しい樽に交換するため空になった樽を寄せた時に、生ビールホースと炭酸ガスホースが引っかかり炭酸ガスボンベが倒れてきて、右足甲に直撃した。すぐに冷やす等処置を行うも腫れあがってきてしまった。	55	140201	5	10 ~ 29
2017	10	11~12	工場において、流量計のポンプ修理のため、濃硫酸を汲み上げるポンプケースの破損の確認をしていた。一時確認作業を中断して（流量計の側で）対応を協議していたところ、破損したポンプから濃硫酸が噴出し、それが顔・頭・左上腕部にかかり、受傷した。	46	11702	12	1~ 9
2017	11	17~18	局内作業中、作業場から別の作業場に戻って移動した際、荷物区分時に使用するフリーローラーの連結部分に腰骨部分を強打した。（フリーローラーは所定の場所に保管しており通路側の妨害はしていなかった。）強打後痛みはあったが本人の判断で勤務した。帰宅後、湿布を貼った。翌日午後まで勤務したが痛みが治まらないので、上司に事情を報告して早退し病院へ受診した。	29	10808	11	100 ~ 299
2017	11	14~15	工場内で、割水作業の為屋内タンクの上で攪拌機を持ち上げている時に足が滑り転倒し、腰を骨折した。	45	10105	2	10 ~

									29
2017	12	13~14	<p>変成炉（一酸化炭素発生装置）の上部にてメンテナンス（触媒交換）中、バルブが完全に閉まりきっていなかったため、一酸化炭素を吸い込み中毒になった。なお、変成炉は電源・ガスともに完全に停止していた。</p>	52	11301	12	~	49	
2017	12	21~22	<p>工場結晶1課K4棟結晶引上室内No.426炉にて、炉内の清掃作業中、フラッパーを開き、排気口部に閉塞がないことを目視で確認後、掃除機を突っ込んだ際に、排気口内に目視では確認できなかった未燃SiOがあったと推測され、掃除機による吸引で急速燃焼が起こり、火柱が上がるような状態となり、火傷を負った。</p>	34	11109	11	~	299	100

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html